



やまおか むすこ
八木 実佐子さん

津山市在住。県立津山高校を卒業後、社会福祉法人江原恵明会勤務を経て、社団法人岡山県文化連盟理事、津山市文化連盟会長、津山市文化協合理事長、津山詩の会事務局長として現在に至る。

市民を巻き込んだ文化活動が必要

津山市文化連盟では「教育旅行」に力を入れています。これは修学旅行ではなく、4月に入学して5月過ぎに日帰りで勉強になる場所に出掛けるものです。洋学資料館が完成すれば、教育旅行としては、充実し

待っています。現在の洋学資料館には何度か足を運び、城東むかし町まで出雲街道を歩きましたが、毎回寂しい感じがします。新しい洋学資料館では、私が知っている限り、今一番旬な地元出身者のオダギリジョーさんをイメージキャラクターにできたら、すばらしいと思います。彼はファン層が広いですから、幅広い年代の観光客に来ていただけるのではないのでしょうか。ヨーロッパの博物館などには音声ガイドがありますが、彼のナレーションで洋学資料館を案内してもらえるとすれば、全国に口コミで伝わるでしょう。

また、最近の高校では「教育旅行」に力を入れています。これは修学旅行ではなく、4月に入学して5月過ぎに日帰りで勉強になる場所に出掛けるものです。洋学資料館が完成すれば、教育旅行としては、充実し



た内容（コンテンツ）になると思います。これに津山駅の機関庫や転車台の見学を組み込む。コンテンツはたくさんありますから、それをどうやって活かすのか、地元の人たちが自分で考えなければいけません。自分たちが感動しなければ観光客に感動を与えることはできません。そういう意味では市民も自らまちづくりに参加して、にぎわいを創っていく。そうしなければ、まちは盛り上がるはずですよ。

八木 津山には全国に誇れる文化遺産がたくさんあります。市民にもっと津山の大切な文化遺産の価値を知ってほしいですね。市民が勉強する機会、文化に触れる機会をたくさん作っていかれたらいいと思います。市民の中から湧き上がるものを醸成しなければ駄目ですね。そういうまちづくりを目指していくべきだと思います。

津山市文化連盟では、くすのき賞を制定して、あらゆる文化・文芸の分野で伝統を受け継いだり、新しく創造をする人たちが掘り起こして顕彰する事業を実施しています。そういう取り組みがもう少し必要ではないかなという気がしています。観光客にも来てもらわないといけません。市民の文化的で豊かな生活の上に成り立つものだと思います。そういう意味では津山の人たちがもっと多くの文化に触れることができる環境が必要です。例えば美術館などもあればいいですね。

佐々木 私は日本ナショナルトラストの理事長として、文化的価値のあるものや美しい自然環境を修復・保全し、利活用しながら後世に伝えていく活動をしています。また、各地域に拠点施設（ヘリテージセンター）を設けて、まちづくりの核にしています。最近では、伊予西条の駅前に四国地方の鉄道文化の情報発信の場として、四国鉄道文化館を作りました。

このように地域づくりにも携わっていますので、色んな市町村からまちづくりの知恵を貸してくれという依頼が来ます。まちづくりは、古いものをできるだけ大切に作る、それも点ではなく、面・エリアで残すように努力することが重要です。津山は発展が遅れたからこそ、古いものが残っています。そういった意味で歴史を活かしたまちづくりの先頭に立つことができると思います。

次に住民と行政の関係をどう考えるのかという問題があります。まず地元の人間、一人ひとりがまちの良さを認識してまちづくりに取り組むという気持ちが無ければ駄目です。「住んでよし、訪れてよし」というキャッチフレーズがありますが、地元の人が誇りを持つことが肝心です。

市民から湧き上がる文化力の醸成

成功事例に学び 若者の発想を大切に



しみず かつひこ
清水 克之輔さん

津山市出身。青山学院大学卒業後、朝日新聞事業株式会社、朝日サンツアーズビジネス株式会社社長などを経て、株式会社朝日旅行の常務取締役として現在に至る。

一年中来てほしいもの

津山にしかない良いものを守る

と備中櫓が見えますね。これは津山のシンボルだなとつくづく感じました。私はずっと観光の仕事に携わっていますので、我がふるさとをなんとか全国に知らしめて、津山が「しあわせ大国」になるように微力ですがお手伝いさせていただきます。と思っています。

山」がデートのメッカでした。そういう中で郷土愛が自然に培われていたような気がします。今の子どもたちは、時代背景の違いもあり郷土愛が希薄になっているように感じています。その中で、津山にしかない良いものを私たちが守っていかなければいけないと感じています。

市長 うれしいですね。誰もがまず一番に鶴山公園を思い出にあげる。色んな呼び名がありますが、私たちのところは、「お城山」と言っていますね。津山人が「お城山」を愛する気持ち、まさに郷土愛でしょうね。市民も一番強く意識している歴史遺産だと思います。

つ雰囲気が変わってしまい、寂しさを感じる場所がある一方、まちなかでは昔懐かしいオールディーズの音楽を演奏しながら、皆が集まって楽しめる場所もできています。津山というまちはスローな時間が流れている感じがします。あくせくと東京で働いていると、本当にほっとするまちで「ふるさとだな」と実感します。

八木 津山を離れた私たちの世代の人は、大抵「商店街が寂しくなった」と話されます。私たちの世代にとって商店街は、生活に密着している、情報の収集場所であり、文化の発信地であり、そして夢のある場所でした。時代の流れでいたしかたない面がありますが、津山を離れた人に言われると、住んでいる者の責任のような気もしてきます。

皆さんはそれぞれ専門分野で活躍されていますが「地域資源を活かしたまちづくり」について、考えをお聞かせください。

子どもたちの遊び場は鶴山公園。「お城山」と言っていました。駆けずり回って遊んでいました。石垣は本当にすばらしく、今は駅を降り

男の子はさくらんぼを食べて口を真っ黒にし、女の子は松脂を集めて糸を作る。高校生になると「お城

私「お城山」が遊び場でした。男の子はさくらんぼを食べて口を真っ黒にし、女の子は松脂を集めて糸を作る。高校生になると「お城



新洋学資料館（完成予想図）

自分たちが感動しなければ

清水 私が愛するふるさとです。何となく日本中から観光客が来てほしいと考えています。観光は花やイベント、食べ物などが重要な要素となりますが、桜の時期だけというのは寂しい気がします。一年中観光客に来てもらえるものを色々考えています。

例えば、横野では和紙の紙漉き体験ができますし、横野滝では流しうめんを食べることができます。問題はアクセスですが、地元業者のマイクロバスを活用することを考えています。また、新洋学資料館には非常に期